

# ホームレス支援を巡る状況

平成21年6月6日(土) 宮崎市中央公民館 中会議室

第17回目のMf netは、宮崎におけるホームレス支援の現状を学ぶため、市民団体自立生活支援宮崎「ほほえみ」の会の代表理事である横山茂氏を招き、講演をいただきました。



## 横山 茂 氏

よこやま司法行政事務所 司法書士

20年間勤めた県庁を退職後、司法書士として多重債務整理等の業務に携わる。

県庁時代は医療系の技術職として保健所、県立病院等で従事。現在は県庁時代とは異なる法律の分野で活躍中。

本業の司法書士のかたわら、ホームレス支援を行う団体「ほほえみ」の会を設立し、代表理事を務めている。

横山氏が活動を始めたのは平成20年11月14日。ホームレスを集めた初めての相談会を開催。それまで宮崎にはホームレスを支援している団体がなく、知り合いの牧師と社会福祉士の友人と一緒に相談会を開催した。

## ホームレスとは何か

ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法(平成14年8月7日施行。10年の時限法。)によると“都市公園、河川、道路、駅舎その他の施設を故なく起居の場所とし、日常生活を営んでいる者”と定義されている。しかし、この定義が示しているのはホームレスではなく「ハウスレス」。狭い意味となっている。

しかし、ほほえみの会ではもっと広い概念で活動しているようだ。「ホーム」とは“家庭”

や“家庭生活”のこと。つまり、ホームレスを“仕事の喪失、家族の喪失、住居の喪失など、生活に欠かせないものを無くした人”としてとらえている。

## ホームレスの数と現状とのズレ

続いて、ホームレスの数の説明に入った（厚労省資料）。対象は、全国の“狭義のホームレス”。

平成15年…20,661名

平成19年…16,828名

平成20年…14,707名

だんだん改善しているが、本当に改善しているかは疑問とのこと。平成20年の調査はサブプライム問題以前の調査で、その後は劇的に雇用情勢が悪化。おそらく平成21年の調査では数が増えていると推測されるそうだ。

変わって、宮崎県内のホームレスの数（厚労省資料）。

平成15年…22名

平成19年…35名

平成20年…27名

しかし、横山氏の団体が調べた数では、宮崎市内だけでも59名のホームレスが確認されている（平成21年4月23日現在）。ところが、宮崎市が発表した市内のホームレス数は17名だったそうだ。

なぜ、数字がこんなにも違ってくるのか…。

全国調査（行政側）はバードウォッチングのような目視調査を行っており、勤務時間内に情報をもらい、カウントしに行く手法。

対照的に、横山氏の団体の場合は1ヶ月に4回、夜の時間帯に個別に面接調査をして得た数字である。ただ、「それでも把握しきれていないホームレスがいるかもしれない」そうだ。

## 宮崎市のホームレスの状況

宮崎市のホームレス59名のうち、ホームレス歴は次のようになっている。

1年未満……23%

5～10年…30%

「ホームレス歴が長期化している人は普通の生活に戻りにくく、支援しようとしても受け

付けようとしません。アパートに入ってもらってもいなくなってしまう。また、最初から支援を拒否されることもあります。」

1年未満の人たちは、今年に入って派遣切りや突然解雇された人が多く、愛知県から帰ってきている人が多い。こういった人たちは普通の生活にもどしやすい。したがって、早期の対応が必要とのこと。

年代別でみると、

40代 … 17%

50～60代 … 50%

若年層が少ないという特徴がある。これは、若年層は働いてお金を稼げる年代であり、再就職ができるからではないかと予測される。

ホームレスになった理由は、

失業… 22名

借金… 10名

病気… 4名

不明… 24名

「ホームレスの人はなかなか本音を話してくれません。何度もコミュニケーションをとっていかねばならないので、なかなか根本的な解決が難しいのです。」と横山氏は語る

## 収入源はアルミ缶、住んでいるのは橋の下

ホームレスの収入源はアルミ缶（1キロ（60缶）＝40円）。中国のオリンピック前は、1キロ＝150円で、月3～4万円の収入を得ていた。しかし、最近は食事もとれないような状況になっている。また他にも漫画を売ったり、家庭を訪問して包丁研ぎの仕事をしたりしているホームレスもいる。

ホームレスが住んでいるのは、多くは橋の下。小屋を立てやすく、住みやすい。

一番住みやすいのは身障者用のトイレだそうだ。床に蒲団を敷き、内側から鍵をかけて寝る。

身障者用のトイレは目につきにくいですが、普通の公園等のトイレでは小さな子どもが遊ぶので母親が心配し



て行政に連絡する。その結果しょっちゅうトラブルが起きるが、対応するのが福祉課や生活保護の担当者でなければホームレスは排除されるだけである。しかし、どこかに逃げても夜は帰ってくるというイタチゴッコになっている。

## 大阪で見かけた女性が最初のきっかけ

続いて、横山氏がホームレス支援を始めたきっかけを話し始めた。

「県庁職員時代に大阪に出張したときに、60歳過ぎの女性が新大阪駅にぼーっと立っているのを見たんです。ちょっと気にはなったんですが、そのまま酒を飲みに行き行ってホテルに帰りました。翌朝、新大阪駅を通ると、その女性はまだ同じ服を着て立っていました。自分の母親と同じ年代の人がそういう状況で一晩いたという状況を見て、『なぜそういう状況になるのか』という思いになりました。」

最近では、認知症や判断能力の無くなった人を食べ物にしている業者がいる。そういう人たちの親族から相談を受けたりしているうちに「社会はうまく回っているかもしれないが、その歪で人権侵害されている人たちがいる」と感じ始めた。それで、ホームレスの相談をすることになり、ホームレスの人たちと話しをしているうちに、「力はないが支援ができるのなら支援をしていこう」と思ったという。

また、2002年に中学生4人がホームレスをカツアゲし、殴って死なせた事件があった。その時、少年たちは“ゴミ掃除”と言っていた。“自分と違うものを排除する”という価値観が子供たちの行動となって表れている。

一番危ない状況にあるホームレス達を救うために、二度と同じような事件が起きないために、支援を続けている。

## ホームレスが増える背景は、複雑に入り組んでいる

「ホームレスがホームレスになるのは、自身の性格的問題がある。」これまでの生活の状況、先天的発達障害などである。普通の人は何かあれば親や友人に相談するが、彼らはすべてを自分で背負ってしまい外に出さない。その挙句“逃げる”という行動にでてしまう。

行政がアクションを起こすのは、ホームレス側から申請があってから。

「ホームレスは“行政とホームレスを繋いでくれる人・繋がり”を欲しがっている。それは支援団体であったりNPOだったり、周りにいる個人個人が必要となってくるのです。」

また、派遣労働者の非正規雇用も問題である。90年代は、非正規雇用者は労働者全体の



20%程度であった。しかし、現在は34%（約1700万人）までになっている。企業側は経費の調整がしやすく、必要なくなれば首を切ってしまう方がいい。それで企業は救われるが、捨てられた人間はさ迷うしかないという構造になっている。

さらに、「現在の政治経済システムは新自由主義である」と横山氏は主張する。「行政的な施策は排除し、市場原理に任せて有能な人間のインセンティブを上げる仕組みになっています。そして経済が発展し、そのおこぼれで普通の一般層も潤うという考え方です。ところが、今はそれが行き過ぎている感があります。行き過ぎた規制緩和や合理化は、最後は自分に返ってきます。宮崎でもタクシー会社が1社つぶれてしまいました。」

これからは、何のために働くのか何のために企業があるのかを考えることが必要である。私たちが生活し、生産力、経済力を上げるために企業があったはず。しかし、今は企業が儲かっていることがいいことだという考え方になってしまっている。

また、「“結果の格差”はよいが、“機会・チャンスの格差”が出てしまっています。お金のない子供、地方にいる私たちがそれです。今、誰もが大学に行っているが、大学に通わせると4年で1000万円くらいかかってしまいます。貧しい家庭は50歳くらいで破たんしてしまいます。今から巣立って社会に出ていく人たちの機会を失わることにもなっているのです。」

非正規雇用の収入は250万以下だそうだ。

「それで家庭が持てるか？子供を産んでもらえるか？34%も非正規雇用社員がいる社会で子供を産んで生活していく気にはならないと思います。雇用問題は少子高齢化問題にも深い影を投じているのです。」

ホームレス問題同様に非正規雇用問題も考えるべきだという。

消費者金融（いわゆる“サラ金”。貸金業規正法上の業者。）も問題である。現在、消費者金融の利用者1400万人。少なくとも8.5人のうち1人が消費者金融からお金を借りていることになる。貸付残高は14.2兆円にもなる。

利息は以前は29.2%だったが、高すぎるということで出資法で利息が20%に改正された。

「消費者金融からお金を借りて、7年後に完済している人が約4割。通常、200万円を超えるとアウトです。そのまま一生懸命返済しながら、借金が膨らんでいって、力尽きて、最終的に破産したり債務整理をしたりするという結末が待っています。」

「借りた人間も悪いと思うが、本当はシステムが悪い。年間20万人も破産者がいるというシステムがおかしい。早くそれに行政は早く対応しなければならなかったのに貸金業者の圧力でずるずる来てしまっていました。」

多重債務者の借入動機としては、50%が生活費。次に、事業資金、住宅資金と続いていく。遊興費は8%程度。単なる浪費ではないことが解る。平成14、15年には約3600人が破産した。

また、信販クレジットの問題もある。本来、カードは「信用、ステータス」を表すものであるが、日本では違う。

「企業が“売る”ための一つの手段となっている。クレジット（信用）になっていない。そういうことをやってきたから、多重債務者の問題が出てきたのだと思います。」

2004年は2億7000枚のカードが発行されている。カードを作らせれば作らせるほど信販会社は儲かる構造である。

以上のように、個人的問題、雇用問題、多重債務等の問題が複雑に入り組んでいるのがホームレス問題である。

## 宮崎市のセーフティネットの現状

「最近、宮崎市は生活保護が良くなりました。以前の問題点は、ホームレスが窓口に行くと、家が無ければ申請書を受け付けませんでした。しかし、ホームレスにはそもそも家がありません。」

実は、生活保護法には“保護開始決定にあたっては居宅をもって開始する”という条文はあるが、“家がない場合に申請を受け付けない”という条文はない。それは生活保護の開始要件であって、申請要件ではない。しかし、家がないと連絡が取れないという理由を盾にこれまで拒否してきた。最近、厚労省の通知で改善されたという。

生活保護の申請者は保護要件（生活ができないということが推定される）に該当するから生活保護の申請をしている。しかし、生活保護開始決定までは14日ほど必要であり、遅くとも30日以内で出さないと却下処分になる。

『30日間飯を食わないでいろ』というのと一緒です。本来は3万円を上限に“つなぎ資金”の貸出制度があるのですが、実際は貸し付けてもらえない人がたくさんいます。『お金がない』とうったえても、『そういうものは自分で何とかしろ』と言われてきたわけです。最近はちょっと変わってきましたが…。」

そもそも、宮崎市のつなぎ資金の予算は30万円しかなかったそうだ。

「こういう問題は先に手を打って予算化しなければならない問題だと思います。その人の人権、人としての優しさをもった対応が必要です。宮崎市的生活保護は4月で4312世帯いるのです。」

## ほほえみの会の取り組み

ほほえみの会の活動としては、ホームレスに接触をとったときから、生活相談、健康相談、法律相談を継続的に行っていくとのこと。アパート、救護施設等に入っていて、その間も支援を続けていく。自分でご飯を作ることもできない人が多いので、そういう日常生活の支援をして、通常の生活ができるようにするのが目的である。

「自分で仕事をして生活をして、生活が完結できるようにする支援を目指している」そうだ。

## 参加者からの質問

参加者：扱っている生活保護の申請状況等、ほほえみの会の活動状況を教えてほしい。

横山氏：現在、主な活動はホームレスを面談し、生活保護を受けさせられるようアパートに入居してもらっている。現在、宮崎市内のアパートに24名入居している。

また、生活保護を1週間で使い切るような困るホームレスもいる。その対応に頭を悩ませている。

参加者：①市内の他のホームレスを支えるボランティアとの繋がり、情報交換等の連携をやっているのか。今後、そういった計画があるのか。②ホームレス歴の長い方、精神的障害等もあると思うが、そういう人との苦労話はあるか。

横山氏：市内にもう一つ団体がある。この団体とうちは同じことをやっているが、一緒にやっていくことはないと思う。向こうは、家を一借りて入居させて共同生活をさせている。うちのスタンスはプライバシーがない状態での生活はマズイという気がしている。ただ、情報交換程度は行っていくと思う。

精神的、知的障害によりホームレスになった方もいる。一番困るのはアルコール依存症。アルコールを飲むと全国どこの施設も追い出してしまふ。福祉課と相談して病院に入院するような支援をすとか、介護が必要な場合は介護施設に入所させて支援していくつもり。これから支援体制のネットワークをとっていきたい。

参加者：さまざまな理由でホームレスになる人がいるようだが、もともと努力していなかった人がホームレスになっている場合もあると思う。そういう人の支援をすることに疑

間を感じるのだが、横山氏はどう思うか。

横山氏：私もまったく同感です。しかし、犯罪に巻き込まれたり犯罪を起こしたりするという状況もあるので、ホームレスが増えることで治安が悪くなってしまふ。そうすると社会全体がリスクを負うということになる。そういうことにならないようにきちんと支援して自立させることは、私自身のためにもなることである。そしてそのことがホームレスの人権を守るということになると思う。

参加者：横山氏の活動の中で、行政にはこうしてほしいということはあるか。

横山氏：一番は、必要な時に必要なお金がほしいということ。必要な時というのは走り出しの時。生活保護は十分予算があると思うが、走り出しであるつなぎ資金にきちんと予算をつけてほしい。また、緊急的な小口の融資制度の充実や雇用を生み出す施策を望んでいる。